

## 第9回坊ちゃん一緒にらんラン RUN 大会に参加

右城 猛

11月23日の勤労感謝の日に、坊ちゃんスタジアムの隣にある松山市中央公園運動広場を会場に、第9回坊ちゃん一緒にらんラン RUN 大会が開催され、31都道府県から2240名が参加した。

内訳は、ハーフマラソン(21.0975km)が773名、10kmマラソンが787名、イチワリマラソン(4.2195km)が680名であった。年齢は4歳から84歳と幅広い。わたし達は10kmの部にチャレンジした。

9月14日に金村先生ご夫妻と食事をした際に、9月20日に馬路村のおしどりマラソン大会に出場すると話したことがきっかけで、坊ちゃん一緒にらんラン RUN 大会へ誘っていただいた。

それ以来、週2~3回のペースで自宅近くの農道を30分間くらい走ってこの大会に備えてきた。しかし、1回の走行距離は4km未満であったので、10kmを完走できる自信はなかった。

大会の前日、兼清芳子さんを誘って松山に入り、家内の愛光幼稚舎時代の職場仲間であった渡部和子さん、村上志津子さんと合流し、会場を下見しに行った。しかし、雨が降っていたこともあり、コースを確認できないまま帰ってきた。



当日、7時30分を待って受付を済ます。受付が並んだ場所の中央に相談所があり、そこに大会委員長の金村毅先生(松山大学名誉教授)がおられたので、一緒に記念撮影。



金村紀子先生と記念撮影。紀子先生は今大会の庶務担当。娘さんも大会の役員をされるなど金村家総出で大会の準備と運営に当たっているというお話しであった。



安見和夫・千春夫妻がわたし達のために横断幕を作って砥部から応援に駆け付けてくれた。このような応援があると本当に嬉しい。声援は大きなエネルギーになる。

写真左から村上志津子さん、安見和夫さん、私、絹枝、兼清芳子さん、渡部和子さん。

村上志津子さんは、この大会に出場するためにわざわざ神戸から高速バスに乗って松山に帰って来られた。



8時20分に開会式。最初に、大会委員長である金村毅先生の挨拶があり、「年々参加者が増え、今年は応募者が定員を大幅に超えた。市民ボランティアによる現在の運営は限界に来ているので、来年の第10回を一つのくぎりとし、それ以降は新しい主催者によるマラソン大会として生まれ変わる」という趣旨の話があった。



松山市の中村時広市長が来賓の挨拶。ハーフマラソンに出場することにしていたが、仕事の都合でイチワリマラソンに変更したというスピーチがあった。

その後で、中村市長による大和屋本店ペア宿泊券(1泊2食、5万円相当)の抽選があり、10kmマラソンの部の女子中学生以上39歳以下に出場された松山市の女性が見事にゲットした。



マスコミ関係者も取材に来られていた。



水軍太鼓をたたく地元の子供達



開会式に参加。



8時50分に水軍太鼓の合図で、ハーフマラソンの770名が一斉にスタート。



ハーフマラソンはゼッケンの色が黄色。10kmはピンク，仮装ランナーも少なくない。記録にこだわる人もいるが，大会委員長が話されたようにこの大会は楽しむのが目的。

10kmの部は9時5分スタート。ハーフ組と同様にゲートを潜ってグラウンドを一周してから外のコースに出る。

10kmの部のコースは，グラウンド1周の後外周歩道へ 競輪場前 中央公園橋左折 出合自転車道橋左折 JR線路手前折り返し 出合自転車道橋から土手下へ 中川原橋手前 10キロの部折り返し地点 出合自転車道橋左折 中央公園橋右折 競輪場前 グラウンド3/4周でゴール。



折り返し点に向かって走る妻。笑顔で余裕の走り。後方に見える建物は坊ちゃんスタジアム。



重信川の河川敷の10km折り返し点で安見夫妻が応援のため待機してしてくれた。千春さんは堤防に横断幕を立てて声援を送ってくれていた。



折り返し点を回ってから両手を挙げて再び安見夫妻の声援に応える。



10kmを走る仮装ランナー



安見さんの時計では，私が折り返し点を回ったのは家内より3分遅れ。馬路村のおしどりマラソンではないので，マイペースで走る。最初2kmほどが苦しかったが，体が温まってからはだんだんと調子がでてきた。30分以上走るのは初めての経験であったが，体力が付いている自分の体に感心する。まだまだ捨てたものではない。



安見和夫さんは、カメラのシャッターを押しながら、「ゆっくり、ゆっくり」と声援を送ってくれた。



奥さんも堤防の上から声援を送ってくれた。



5人とも見事に完走。渡部さんと村上さんはマラソン大会初出場。兼清さんと村上さんは、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮した素晴らしい走りであった。

10kmの道のりを休むことなく走り通したのは、私も家内も初めての経験。来年は還暦を迎えるが、まだまだ進化している。



ゴールして受付でゼッケンナンバーを見せると、賞状に氏名、順位、タイムをプリントしてくれた。ゼッケンにトルソータグと呼ばれる IC チップが貼り付けられていて、スタート時とゴールしたときにゲートを潜ると瞬時に識別してタイムを計測し、コンピューターで記録を集計しているようであった。こんな所にも最新の技術が活かされているのかと感心した。

私のタイムは1時間15分04秒。1kmが7.5分。家内は、私より約6分速い1時間09分31秒。1kmを7分弱。日頃の練習の差がもろに出た。

ちなみに順位は、私が10km男子40歳以上の部210名中の第177位。家内は10km女子40歳以上の部113名中の第89位。とても自慢できるような記録ではないが、わたし達にとって10kmを完走できたという喜びと自信は大きい。

マラソンの後、会場近くのレストラン「ローズハウス」に入り、5人でランチを食べた。全員が昔はマラソンが大嫌いだったと話していた。歳と共に体力が衰える。ストレスが増えているいろいろな病気が出てくる。何とか健康を維持しようと苦しさに耐えながらトレーニングを重ねているのである。そうすると、いつのまにか筋肉が付き、想像もしていなかったような記録が出せる体になっていることに驚かされる。このままトレーニングを続ければ、さらに進化するだろうと思えるのである。

5人ともワイキキビーチを横に見ながら颯爽と走っている姿を空想しているように思えた。

(2009.11.24)